

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：防災費 目：消防指導費

事業名 消防学校オープンキャンパス開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 消防学校 管理調整係 電話番号：0586-89-3226

E-mail：c21201@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 114 千円 (前年度予算額： 186 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	186	0	0	0	0	0	0	0	186
要求額	114	0	0	0	0	0	0	0	114
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 県内の消防本部は小規模な本部が多く、小規模な消防本部が単独で採用活動を行っても限界があり、人材不足の影響等により十分な新規採用者を確保できていない状況である。
- ・ また、せっかく消防職員として採用されても、消防職員の仕事についての十分な理解がないために、早期に退職してしまう者もいる。
- ・ 消防士を目指している又は消防に興味のある学生 (大学生、専門学校生、高校生) などに対し、消防の仕事の内容の説明、消防学校の入校生との交流、教育訓練の見学などを通じて、消防職員の仕事に対する理解や関心を深めてもらい、進路選択の動機づけを行うことを目的に、消防学校のオープンキャンパスを開催する。

(2) 事業内容

消防士の仕事の紹介、消防学校の見学、学生の生活等を紹介し、消防士の確保を図る。

(1) 開催時期 (検討中) □

- ・ 令和8年8～10月の1日□

(2) 対象者□

- ☐消防職員への採用を希望する者 (主に、大学3年生、高校2年生、専門学校生)

(3) 事業内容□

- ☐消防学校案内、学生生活の紹介 (1日の流れ)
- ☐総合教育学生 (総代、女子学生、現任者) との交流、訓練見学
- ☐体験活動 (ホース延長、ロープ結索等)
- ☐県内消防本部からの採用情報案内

(3) 県負担・補助率の考え方

消防組織法第29条で、消防職員団員の教養訓練に関する事項は都道府県の事務とされており、県において消防学校案内を行う。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

単位:千円

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	92	事務消耗品等
光熱水費	7	炊き出し訓練用
役務費	15	郵便代、保険料
合計	114	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

無

(2) 国・県の状況

三重県、富山県、愛知県、名古屋市で開催

事業評価調査書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

消防学校オープンキャンパスに参加した者に対して行うアンケート調査において、満足度80%を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
参加者の満足度 (アンケート)	—	—	50%	60%	80%	—

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	
令和6年度	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 3	・県内の消防本部は、人材不足の影響等により十分な新規採用者を確保できていない状況であり、消防職員として採用されても、仕事についての十分な理解がないために、早期に退職してしまう者もいることから、オープンキャンパスを開催する必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	

【〇〇課】